

林の

2

- | | |
|--|--|
| 1 内科紹介 副院長 久野信義 当院泌尿器科の最近の動向 泌尿器科医長 岡村武彦 | 3 7階病棟は今一 7階病棟 前田タツ子 病院給食の様変わり 給食室 後藤憲治 診療のご案内も編集後記 |
| 2 冠動脈バイパス術の 最近の話題 心臓血管外科 千井隆正 | 4 |

国家公務員共済組合連合会

名城病院

名古屋市中区三の丸一丁目3番1号
TEL (052) 201-5311 (代) 〒460-0001

内科紹介

副院長 久野信義

当地に名城病院が発足後、時ならずして内科から循環器科が独立しましたので、それ以来内科は循環器系疾患（主として冠動脈疾患）を除くすべての内科系疾患を取り扱って居ります。

従って、入院・外来共患者数は全体の約1/3を占め、9人の常勤医でその診療に当たって居りますので連日多忙を極めて居る状態です。

内科は一応3科に分けられて居りますので、ここではその概略を記し、詳細はそれぞれの責任者より述べさせていただきます。

第1内科は消化管疾患を専門として居ります。食堂から大腸に到るまでの消化管疾患に対し

ては、内視鏡を駆使してその診断のみならず、一部その治療も行っているのが最近の傾向です。とはいうものの本格的な治療は外科にお願いすることが多いのですが、当院では内科と外科の連携が極めてスムーズに行っているのも特徴の一つです。

診断がついてから手術迄往々にしてみられる長期間待機もなく外科に転科でき、又要すれば緊急手術などの対応も可能です。肝・胆・膵の分野でも、超音波検査・CT・MRIなどの画像診断を有効に利用して居りますが、これらはスタッフの技術もさることながら、器械も最新のものが用意され、他病院より

の依頼もよくみられます。

第2内科は呼吸器疾患が中心で、喘息・肺気腫などから肺癌に到るまで、気管支ファイバーなどを利用してその診療に当たっております。特に肺癌の化学療法は名古屋大学医学部と同じレジメで実施しています。放射線治療装置の設置が望まれる処です。

第3内科は腎透析・血液疾患などが中心となっています。透析は近隣でも行っている所が少なく、よく紹介のあるところで、血液疾患も専門医は1人ですが、悪性リンパ腫などを対象に頑張っています。

いずれにしても病診連携の先生方を始めとして、なお一層の御指導・御協力をお願い申し上げます。

当院泌尿器科の最近の動向

泌尿器科医長 岡村武彦

泌尿器科は7月に待望の体外衝撃波結石破碎装置が導入され現在順調に稼働しています。病院内外から多くの御紹介があり、7・8の2ヶ月だけで30人

以上の尿路結石患者様を治療しました。電磁変換方式を採用した最も新しいタイプの機種で治療効果の感触は極めて良好です。すべての尿路結石の治療が

可能であり、今までの破碎装置の中では治療中の疼痛も非常に少なく坐薬などの軽い麻酔で治療できます。慣れてくれば無麻酔でも施行でき、外来での治療も可能です。このように侵襲が少なく直ちに社会復帰が可能で、高齢者や合併症のある方でも治療できます。この装置の導

入にともない6年目の田貫医師が赴任しました。常勤が2人になりましたので、外来診療のかたわら午前中に毎日でも治療できますので気軽に御相談下さい。

自然排石が可能でも疼痛発作が続いて苦しんでいる方は、場合により時間外での緊急治療も行う予定です。

また、泌尿器科全体の患者様の数もこの1年間で非常に増えてきました。外来診療で何と言っても多い疾患は前立腺肥大症です。初期の場合は薬物療法が主体となりますが、進行すれば手術が必要となります。極めて大きい場合を除いては、尿道から内視鏡的に切除できます。当院の特徴として、心血管系に異常のある患者様が多く、これら

の合併症を持つ前立腺肥大症患者に対しては、尿道ステント留置術を積極的に行い、良好な成績を得ています。最近の傾向として、前立腺癌の患者様が増えています。多くの場合、ホルモン療法によく反応しますので、予後はそれほど悪くありません。

膀胱腫瘍、特に表在性膀胱腫瘍の患者様も多く、BCGを主体とした膀胱内注入療法を多数行っています。BCG膀胱内注入療法は昨年4月に保険適用になり、再発予防に画期的な効果があります。さらに、若手の田貫医師は不妊症の治療が専門ですので、将来不妊外来も行う予定です。

手術に関しては、毎週月曜日・金曜日が手術日であり、主として月曜日に全身麻酔を要する大きな手術を、金曜日に小手術を行っており、この1年間手術件数が増加し多い場合は15件を越す月もあります。やはり経尿道的前立腺切除術などの内視鏡手術が多い一方で、悪性腫瘍に対する根治的手術も少なくなく、回腸を利用した代用膀胱造設術を主体とした膀胱全摘術や全立線全摘術なども積極的に行っています。

体外衝撃波結石破碎治療の特徴

- ・本治療法は保険が適用されます。
- ・すべての尿路結石の治療が可能です。
- ・外来治療も可能です。(医師に御相談下さい)
- ・疼痛が少ないので無麻酔で治療可能です。
- ・傷跡もなく、直ちに社会復帰が可能です。
- ・高齢者や合併症のある方の治療も可能です。



冠動脈バイパス術の最近の話題 より侵襲の少ない手術 (MIDCAB)

心臓血管外科 平井雅也

現在、成人の心臓手術の中では、冠動脈バイパス術 (CABG) が最も多く行われており、毎年、全国で約1万人の患者様が手術を受けています。最近、CABGにMIDCAB (minimally invasive direct coronary artery bypass) と

いわれる方法が導入され、ここ1~2年で急速に広がりつつあります。これは、人工心肺を用いずに心臓が動いたまま手術を行うもので、従来の人工心肺を使用して心臓を停止させて行う方法に比べ、術後の回復が早く

入院期間も約半分に短縮されます。もっとも現時点では、術野に制限があるため、どの冠動脈にもバイパス術を行えるわけではなく、また、バイパスの開存性という点では従来の方法にやや劣りますので、すべての患者様に対して、MIDCABを行うというわけにはいきません。CABGが必要な患者様は、基礎疾患として、高血圧・糖尿病・高脂血症といった生活習慣病 (成人病) を持っている場合が

多く、高齢者が多いため動脈硬化が進んで、心臓以外の臓器にも何らかの障害のあることがよくあります。このような場合、人工心肺を使用して手術を行うと、例えば術中に脳梗塞などの合併症をおこすことがあり、それに対してMIDCABは非常に有益な方法となります。患者様の状態と冠動脈の病変をよく検討した上で、どちらの方法がよいか決定するわけです。

当院でも昨年より人工心肺を使用しないバイパス術を導入し、多枝病変に対しては循環器科とタイアップしてPTCA（経皮的冠動脈形成術）と組み合わせるなどして、従来の方法では術後の経過が芳ばしくないであろうと思われる患者様に対しても積極的に手術を行い、治療成績の向上に努めています。幸い、現在のところ、バイパスの閉塞や狭窄はなく、良好な成績をお

さめています。CABGの他にも、心臓弁膜症や大動脈瘤などの疾患に対しても積極的に手術を行っており、緊急の疾患に対しても対応できる体制をとり、今後とも手術成績の向上に努めていきたいと考えておりますので、よろしく御支援の程、お願い申し上げます。



7階病棟は今…

7階婦長 前田 タツ子

当病棟は、四季の移り変わりを最も早く眺望できる階にあり、入院されておられる患者様、看護する私達の心を和ませています。

1995年5月の病棟編成に伴い、現在は小児（小児循環器）科・整形外科・脳神経外科・歯科口腔外科で運営されております。

小児（小児循環器）科としては急性疾患・心疾患で入院の多くを占めています。

脊椎疾患として、頸椎症・脊椎側弯症・腰椎椎間板ヘルニア・脊髄腫瘍等が多くを占め手術は週3回（火・木・金）、“背骨のことなら名城病院の整形外科”でと東海三県より患者様が入院されている整形外科です。

脳神経外科は、救急入院、救急手術も余儀なくされ、高齢化に向け需要が多くなって来ています。

歯科口腔外科としては、インプラント・埋伏歯・口腔腫瘍で多くを占めています。

このように重要な疾患を抱え、毎日が多忙となっている私達の看護は、病床数68床、看護スタッフ27名で運営されております。

1997年4月より看護体制を固定チーム継続受け持ち制を導入し、看護の充実を図っており、夜勤は原則として3交代勤務で3人で行っております。手術日は、要求される看護がかなり高いものがあり、4人夜勤として対応しております。入院されておられる患者様が、一日も早く元気なお姿で御自宅へお帰り頂くため、患者様の困っておられることを問題視し、看護計画を立て、入院生活を満足にしているだけの看護となりますよう努



7階からの眺望

力をいたしております。

また、看護スタッフの質のアップのため、カンファレンス・勉強会・看護を実際に行う場での教育など前向きに取り組んでおります。

毎日を看護させていただく中で、患者様の年齢も新生児から80歳台までと幅広い年齢で、人間関係の難しさはありますが、人と人のつながりで、喜び・楽しみを学ぶことにもなっております。この学びの中から、人としての感性を高めていきたいと思っております。

今後もさらに患者様に納得、満足される看護婦になるよう、スタッフ個々が力を合わせていく所存であります。

病院給食の様変わり

給食課 後藤 憲 治

「早い、冷たい、まずい、選べない」は一般的に患者様の病院給食の評価として、万人の共通するところでした。現実には全国的に病院給食の改善状況はまだまだの感が否めず、各病院の栄養士・調理師の努力にも拘わらずなかなか満足の評価がもらえないのが現状です。

愛知県内の病院256施設の内、適時適温管理を達成しているのは、67%の170施設であり、選択メニューを実施しているのは44%の112施設と以外に少ない。(平成9年度愛知県栄養士会調査により)

昭和33年に制度化された「基準給食」は病院給食の向上に効果を上げたのだが、どちらかと云うと栄養量確保の点に重

点がおかれたのが事実です。昨今、栄養重視からホスピタルアメニティ重視に社会的通念が変わり、病院給食の評価の対象も患者様のニーズに対応した食事の提供、サービスの充実など療養環境的な視点に移行しており、平成6年より基準給食制度が廃止され、患者自己負担の実施と「入院時食事療養費の基準」制度が開始されています。当院においては、「喜ばれる食事」を目指して夕食6時給食や保温食器を使用しての適温給食、更に選択メニューの実施など常に改善に取り組んでおり、選択メニューについては平成11年中には365日実施したいと考えています。病院の食事は治療食である以上、その食事が疾病の治

療・回復を助長するものでなければなりません。残菜が無い様、好まれるメニューとおいしい調理がどうしても必要であり、当院には国家試験の給食用特殊料理専門調理師の資格者もおり、治療食に反映できるよう常日頃技術の向上に努力しています。

さて、去年は給食界にO-157食中毒旋風が吹き荒れました。集団調理は家庭料理に比べて食中毒の危険性が増大するので施設・設備・給食職員の衛生対策は日頃からチェックを怠れない。厚生省はO-157対策マニュアルを全国に通達し、当院でも全般的に衛生対策を強化しておりますが、適時適温で皆さんの嗜好にあった衛生的な給食を目指して給食課一同、更に努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

名城病院診療等のご案内

■ 診療科目

内 科・循環器科・小児科(小児循環器科)・外科
整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科
泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科
精神科・神経内科

※午後の診療等、詳しくは
医事課 [(052)201-5311 内線232] にお問い合わせ下さい。

■ 診療受付時間

新患受付……………午前8:30～11:30まで
再来受付……………午前8:00～11:30まで

■ 面会時間

平 日……………午後0:30～8:00まで
土・日・祝……………午後7:00まで
但し、小児科病棟は、午後7:00まで
ペビーは、午後1:00～2:00まで
午後4:00～5:00まで
午後7:00～8:00まで

■ 診療案内

休 診 日……………土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)
創立記念日(11月6日)

編集後記

本紙の愛称が「わ」に決まり、本号より用いることとなりました。「わ」はひとつの意味・表現にとらわれない名称です。人の「和」や「輪」にも通じましょうし、新鮮な驚きの「わ！」と取ることもできましょう。毎回、表現も数も自由に変えようということになりました。そうした広がりの可能性や楽しさから、応募された候補の中から自然に採りあげられたものです。

第2号では、新しい治療診療のご紹介記事を読み、小さい「わ」からしだいに大きく3文字ならべる出現のイメージで用いさせていただきます。最新の機器から地味ながらこれからの患者様のニーズに合わせた努力まで御一読頂ければ、編集委員一同の幸いと考えます。

お忙しい中、原稿の締切にあわせてお書きいただく執筆者のご苦労を察しつつ、推敲をおおせつかる我々委員もよりよい紙面にと心を砕いております。非才・蛮勇にはご寛容をお願いしつつ、名城病院だより「わ」が育っていきますようご協力お願い申し上げます。

(文責 後藤 憲治)